

協働取組ガイドライン(仮称)原案について

1. 事業者・NPO・高等教育機関・行政等向け(全 20 ページ)

(1) 名称案

環境教育 協働授業づくりハンドブック ～学校との連携・協働は活動の拡大・深化のチャンス！～

(2) 編集方針(コンセプト)

対象: 事業・活動を拡充させたい、または、地域貢献を行いたい事業者・NPO 等

趣旨: 学校との連携・協働によるメリットを示す
学校との連携・協働を円滑に行うポイントを示す
自らの事業・活動の社会的意義の認識を促進 } → 連携・協働の後押し・円滑化

(3) 構成(章立て)

導入 学校との連携・協働のメリットを知ろう

【連携・協働へのインセンティブの提示】

- 学校との連携・協働の意義・効果
- 学校からの期待と学校を取り巻く状況の変化

第1章 事例から見えてくる！学校との連携・協働の成果やポイント

【「うちにもできそう」、「こうすればうまくいく」という安心感を付与】

○事例紹介

「授業内容」、「ニーズと成果」、「授業実現までの流れ」、「ポイント(効果を高める工夫)」、「アドバイス(さらに魅力的な授業へ)」の観点で記述

- ①NPO×小学校 「リサイクル体験を通して伝える、製品の環境負荷と『使い切り』の大切さ」
- ②事業者×中学校 「まちづくりを題材に『人も地球も生きものも守る私』への行動を促進」
- ③高等教育機関×幼稚園 「動物園への遠足前に、生きものを尊ぶ心を育む」
- ④行政・NPO×小学校 「ホテルを通して、身近な川への負荷の少ない生活を考える」
- ⑤行政 「講座情報を時系列で整理・一元化して校外学習を支援」

第2章 学校との連携・協働に挑戦してみよう

【「やってみよう」をサポート】

- 実践ワークシート(授業企画用、学校との打合せ用)の作成と、円滑に進めるためのポイント
- 事業・活動の社会的意義の認識、プログラムづくり・発信、打合せ、事前調整、ふり返り

(4) 配布計画

事業者(EPOC、名商エコクラブ会員等)	各1冊	約400部
NPO(「森と緑づくり税」助成団体等)	各1冊	約500部
県内高等教育機関	各1冊	約250部
県内市町村	各1冊	約60部
予備		約290部
		計1,500部

2. 学校向け(全 12 ページ)

(1) 名称案

環境教育 協働授業づくりハンドブック ～感動を引き出す！授業で使える！困った時にこの一冊～

(2) 編集方針(コンセプト)

対象: すべての教員

趣旨: 各教員のニーズに応じて活用できる情報を提供 → 連携・協働の促進・円滑化

(3) 構成(章立て)

はじめに

【連携・協働へのインセンティブの提示】

- 連携・協働の意義・効果

第1章 既存プログラムを活用してみよう

【手軽に依頼できる講師・プログラムの紹介】

- 専門家に来てほしい
地域の人材情報 URL 事例(中学校×事業者、環境全般)
- 本物を見たい・体験したい
見学先情報 URL 事例(特別支援×NPO、自然)

第2章 独自の授業を依頼してみよう

【コーディネート制度の活用】

- コーディネート事業概要・事例紹介
「主題」、「学校の悩み」、「紹介された人」、「実現した授業」、「学校のコメント(授業の効果)」、「成功のポイント」の観点から記述
- ①生きもの (幼稚園×専門学校) 動物園への遠足前に高める、生きものへの関心
- ②ごみ・3R (小学校×NPO) リサイクル体験と専門家の話で深めるごみ問題への理解
- ③水 (小学校×行政・NPO) 各教科の知識と実生活をつなげる「身近な川・ホテル」
- ④地球温暖化(高校×大学教員) 国際会議参加者から直接聴き・考える、身近な行動
- 高度で専門的な内容のための情報源
テーマ別の連絡先例(各大学連携担当窓口等 URL、自治体担当課等)、

第3章 連携・協働のポイントを押さえてみよう

【コツの伝授で裾野を拡げ、質を高める】

- チェックシート(目的の確認、講師依頼、打合せ、事前準備、ふり返り)
- Q&A 連携・協働の疑問解決へのヒント
- 講師依頼相談フォーム(様式)

(4) 配布計画

幼保・小中高・特支	各3冊	約9,000部
教員研修(総合教育センター等)		約2,000部
予備		約4,000部
		計15,000部

※ その他、電子データにより、メール等で全教員へ周知